

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400062		
法人名	株式会社シルバーストのぼの		
事業所名	グループホーム白鳥		
所在地	三重県亀山市能褒野町82-1		
自己評価作成日	平成 23 年 9 月 18 日	評価結果市町提出日	平成 23 年 12 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2490400062&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 10 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりの状態を把握して、穏やかに過ごしていけるよう、ターミナルケアまでの支援手伝いを心掛けている。
 利用者は日中のほとんどの時間を自室ではなくリビングで過ごし、皆で会話や、趣味、テレビなど楽しめるようにしている。
 職員はヒヤリハットを積極的に報告共有して介護の改善に努めている。
 また、温かい笑顔、優しい気持ち、わかりやすい言葉で接するよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

重度の認知症状を現す人でも受け入れ、職員はその状態に応じた援助をすることによって次第に落ち着きが見られるように努力と工夫を重ねており、高く評価したい。関連して、利用者にとどのような行動があっても、閉じ込め対策をすることでなく、オープンにして運営する努力を重ねている。また、敷地の空き地を活用し、土に親しめるよう工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が自立した日常生活を営むことができるよう家庭的な環境を整え、介護支援を行うなど、理念を共有し、私たちのモットーとして「温かい笑顔」「優しい気持ち」「わかりやすい言葉」で利用者の立場に立ったサービスを実践している。	理念は、別途文書でやや長めに策定されている。このため職員は、モットーとして定めた言葉を日常的に使用し、認識を深めるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1-2回地域ボランティアの方に来ていただき、フラダンス、大正琴など楽しいんでいる。またその際に町内のお年寄りにも参加してもらい交流している。	設置者、管理者は地元の人であり、事業所の設置は地域の人々から理解されやすかった。そのため地域のボランティアもよく来訪し、運営推進会議ではボランティアや地域行事の情報もよく教えてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設8か月でそのレベルまで来ていない。今後実践を通じて積み上げる理解と支援の方法を、地域の人々に向けて生かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は5月より、2ヶ月に1回計画的に開催している。ホームの活動報告を行い、地域行政の方との話し合いや、助言、協力をいただき、サービス向上に生かしている。	運営推進会議の意味がよく分からず、会議を行えなかったが、広域連合で説明を受け理解したので、本年5月から2カ月毎に実施できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	亀山市高齢障がい支援室、鈴鹿亀山地区広域連合介護保険課の担当者とは日頃より連絡を密にし、運営の状況を伝え、助言指導をいただいている	分からないことがあれば、すぐに亀山市や広域連合に電話したり、訪ねて行って話し合っており、その交流はよくされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は介護保険指定基準で禁止対象となっている身体的拘束や利用者の行動を制限する行為を理解しており、取り組んでいる。また玄関は人が通過するとリビングでチャイムが鳴って知らせよう工夫している。	できるだけオープンな運営をして、閉じ込めない工夫をしている。中には扉を無理に開けたり、窓から飛び出す人もいるので、出入り口にチャイムをつけ、その人の状態に応じて鍵をかける場合もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳の保持と自立支援という介護の基本理念を踏まえ、接するよう心掛けている。特に心理的虐待にならないよう職員相互で注意しあい努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会等で学ぶ機会は持ったが、利用者とその家族にまだ支援の必要性がない。今後他の法律、制度も理解する機会を増やし活用できるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際はよくわかるよう十分説明し、理解納得を得ている。また、入居後でもわからないところは、いつでも質問してもらい答えている。契約、重要事項の改定はまだ行っていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者家族に毎回代表して1家族参加してもらい、忌憚のない意見を出してもらっている。家族の面会は週1,2回はあるので、その際に話し合い介護に反映している。また玄関ホールに意見箱を設置している。	家族はみな近隣に済んでおり、ほとんどの家族は毎週のように来訪している。その際に職員と話し合ったり、運営推進会議に交代で参加して意見を出してくれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催して、意見や提案を聞く機会を設けている。また代表者(管理者)を含めても8名の従業員なので何でも言える雰囲気でのコミュニケーションよくとっている。	月1回のカンファレンスや毎朝の申し送りの際に利用者援助や事業所運営について意見交換する。今回の自己評価は、職員全員に資料を配り各自が記入、それを管理者がまとめた。ほとんどの職員がモットーに触れていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(管理者)も職員と共に実務を行っており、勤務状況を良く理解している。勤務形態に無理が無く、やりがいがある明るい職場環境を保つよう、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を官民含めた外部研修に積極的に参加させ、スキルアップを図り、実践に生かしてもらう機会をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の開催する講習会へ参加して交流を持った。また、開設前には職員を他施設で実践研修させるなど交流した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、ケアマネジャーより本人の情報を聞き取り把握し、入居初期には 本人の話によく耳を傾け安心な暮らしができるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係は大切にしている。入居者を受け入れたことを、家族も受け入れたとの思いで接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約(入居)前に家族との面会はもちろんのこと、必ず本人とも会話を聞き、本人のために最もふさわしいサービスを考える。本人のために良ければ家族とも話し合い、他サービス利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが家族と思い、一日中家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、それぞれに応じた暮らしができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人のここ最近の状況を家族に伝えている。また急を要する場合は電話等、離れていても、共に支えていく関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の楽しかったこと、思いで話などに耳を傾け、心の中での関係が途切れないよう支援に努めているが、実際の交流などは家族の理解も必要になり、あまり実践できていない。	昔の繋がりを大切にしてい取り組んでいる。出身地の友人、知人もよく来て、草刈り、イモ掘り等を手伝う人もいる。中には興味本位の方もいるが、そういう方の来訪は断っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中を皆がリビングで過ごすようにして、利用者同士が一緒にいることがほとんど。並んで一緒にテレビを観たり、洗濯物をたたんだりとお互い仲良く支え合えるようにしている。関係が良好に保てるよう必要な時は間に入って取り持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービスへ移行した方については、本人のケアマネジャーとは連絡を取るなどしてフォローするが、本人・家族との機会は持っていない。医療機関へ移った方とは家族とも連絡を取り支援に努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞いて、楽しく暮らせるよう努めている。	農家出身の利用者が多いので、事業所の空き地を利用して畑を作り、収穫物は事業所内で食べてもらうようにしている。また閉じこもり生活にならないよう、利用者と話し合いながら外出の機会をつくるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、これまでの暮らしの様子や、仕事、性格など聞き取り把握し、本人との会話や介護に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握は日々行い、カルテに記録している。状態の変化には特に気を配り、速やかな対処ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等と話し合い介護計画を作成している。	定期的な見直し期間は決めてないが、ほぼ6カ月毎にカンファレンスをしている。認定更新は期限1カ月前のモニタリングで、次のプランに備える。カンファレンスでは職員が率直に話しあっており、結果は家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの情報を共有し介護計画に活かしている。またカンファレンスで介護の問題点を取り上げ、話し合い改善している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとして本人、家族を支えるサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議での地域の代表の方との交流を通して、できるかぎり地域の行事等に参加の機会をつくり、協働し安全で豊かな暮らしを楽しめるように努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医で適切に受けられるように支援している。本人の状態の適切な情報提供等を行っている。	利用者の入居前の主治医との関わりは継続している。通院時は主として家族が付いているが、緊急時には職員が協力医まで連れていく。主治医には事業所での様子をできるだけ情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	代表者(管理者)が看護職の職歴が長く医療知識があるので、気づきが早く適切な受診が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在まで1件の事例がある。入院時には病院まで同行し、病院、家族との情報交換、相談に努めるなど、退院後の看護に反映させた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、説明と家族の意向確認を行っている。家族との話し合いを密にし、ターミナルケアに取り組む。	対応策のマニュアルはないが、代表が准看護師であり、職員には代表と共に病院勤務をした人もあり、ターミナルケアに不安はない。利用者家族の内、数名はターミナルケアを希望しており、今後のことは主治医、協力医とも話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの取り扱い訓練は2回実施した。しかし、すべての職員が応急手当や初期対応ができるレベルではない。早急に訓練の機会を持って実践力を身に付ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路は周知している。運営推進会議での提案で消火栓ホースをホームの駐車場内に配備することとなった。また今後開催される市の防災訓練に参加するなど地域との協力体制を築いている。	事業所運営を始めてから日も浅いので、防火訓練、避難訓練はまだしていないが、防災についての出前講座を1回実施、市の防災訓練にも参加している。また避難所の確認はしており、AED、心臓マッサージ訓練を行っている。	災害はいつ来るか分からず、話だけでは職員全体で緊急の動きができるに限らないので、早々に防災訓練を行い職員全体に浸透できるような取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心理的外傷を与えることが無いよう、一人ひとりにあった話しかけを心掛けている。	利用者一人一人の心を傷つけないよう、職員で話し合い、特に言葉がけには注意をしている。同じ目線で話しかけるようにしている。またトイレ誘導は大声で言わないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望にかなうよう協力している。またできる限り自己の意思での行動を見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングではそれぞれのペースで過ごしてもらっているが、どうしても家事作業や外出などは職員側の意向になる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕着替えをし、清潔な身なりを心掛けている。それぞれの身だしなみオシャレを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立がマンネリにならない配慮や細かくきざんだり、柔らかくしたりなど、調理の工夫をして食事をたのしんでもらっている。野菜のきざみや後片づけなど一緒におこなっている。また男性は見ているのも楽しみになっている。	調理を手伝う人が一人、食器拭きをする人が数人いる。また、食材買い物には管理者や職員ができるだけ利用者を連れ出している。歯がなく入歯に模していない人もいるが、原型を崩さないよう提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一人ひとりに合わせた量と内容を工夫してバランスをとっている。また水分補給はたえず行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日必ず歯磨き、うがいを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めの声かけなどできるだけトイレでの排泄、自立支援をしている。ただし本人の身体の状態でおムツ使用がやむを得ない場合がある。	排泄の介護度は高く、ほとんどリハビリパンツを使用、おむつ使用の人も2名いる。しかし排泄チェックをして、できるだけトイレ誘導して失敗防止に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と水分摂取、軽い運動、薬等一人ひとりに応じた対応をして予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助なしでは入浴できないので、入浴日は週2回決めて入浴している。入浴に際しては、ゆっくりとくつろぎ楽しい入浴タイムになるよう声掛けしながら入浴してもらっている。	月火、木金に沸かして、交代制で週2回は入浴できるようにしている。午前中に入浴するが、全員介助を必要としている。	現在は制度上の基準の範囲で入浴の援助がされているが、利用者の状況を勘案しながらより充実した入浴の援助がされることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間を楽しく過ごしてもらい、夜は安眠できるよう支援している。また本人の希望に沿って食後の休息もとるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との連絡を密にし、服用する薬の変更があった場合の本人への影響、変化など、理解に努めている。また服薬ミスを起こさないよう準備容器の改善にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆が生活歴を活かした役割を、とはいかないが、簡単な家事の分担や、酒が飲める方はビールを飲んだり、ささやかな気分転換は図られている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員は難しいが、買い物や簡単な庭掃除、畑作業など外の空気を吸って気分転換を図っている。また家族の方にも外へ出かける機会をつくってもらっている。	外出嫌いの人もあり、買い物や散歩に誘っても参加しないので、行く人は限られてくる。家族が連れ出せる人もいるが、できない家族もある。日帰りの小旅行は家族同伴でしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は個人で所持してもらっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とは面会をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は余裕ある広さで快適に過ごせるようできている。	日中はホールに皆が集まって過ごしている。ホールや廊下は明るく、ゆとりが感じられる。壁かざりなどはまだ少ないが、かえてすっきりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けソファなど、それぞれがお気に入りの場所で過ごせるよう工夫している。独りになりたいときは居室に戻るようになるが、昼間は大半をリビングでゆったり過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団、茶碗、その他日用品など、使い慣れたものを持参して自宅感覚が持てるようにしている。	家族には馴染みの品を持ち込むよう説明しているが、持ち込みは少なく部屋はさっぱりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒時に備えた柔らかい床材や手摺など施設の安全面の配慮はとっている。入居者にはできることは自分でするよう働きかけ見守っている。		